

## 指定管理評価表(身体障害者デイサービスセンター)

平成31年3月31日現在

施設概要	尼崎市立身体障害者デイサービスセンター(尼崎市七松町3丁目8番8号) 利用時間: デイサービス事業10:00~15:00 温水プール事業10:00~16:00 (日、月曜日、祝日の翌日、12月29日~1月3日を除く) 施設設置目的: 在宅の心身障害者に対し、通所の方法により各種のサービスを提供することにより、その自立の促進、生活の改善、身体機能の維持向上等を図る施設として設置 事業内容: 障害者総合支援法に基づく生活介護事業と自立の促進等のための機能訓練等を実施している。また、利用者との契約に基づき介護・給食及び特殊浴槽による入浴サービスを実施している。			
指定管理者の名称	社会福祉法人 尼崎市社会福祉事業団			
指定期間	平成26年4月1日~平成31年3月31日			
業務概要	尼崎市立身体障害者デイサービスセンターの維持管理業務 尼崎市立身体障害者デイサービスセンターに関する事業等の運営			
利用状況等	項目名	平成30年度	平成29年度	平成28年度
	利用者数	6,845 人	7,418 人	7,387 人
	デイサービス事業利用者数	2,558 人	2,724 人	2,689 人
	プール利用者数	4,287 人	4,694 人	4,698 人
所管課・所管課長名	健康福祉局障害福祉担当部障害福祉課・城間 努			
評価対象期間	平成30年4月1日~平成31年3月31日			

評価項目	説明	評価	評価コメント
1 サービスの質の維持・向上		<b>B</b>	利用者及びご家族へアンケート調査を実施し、ニーズ把握によりサービスの向上に努めるとともに、年度計画に基づき積極的に取り組んだ。また、養護学校卒業予定者の施設見学を開催するなど、利用者の掘り起こしに努めるとともに、イベントでの近隣大学のボランティアの活用、市内小学校の総合学習では、車いす体験等を通じてデイサービスセンターへの理解を深めるなど、地域との交流が得られた。
自主事業・指定事業	計画に沿って、積極的に自主事業・指定事業に取り組んでいるか		
サービス向上	サービス向上の取組みがされているか		
施設利用者数	施設利用者の掘り起こしがされているか		
利用者要望の把握	利用者要望の把握がされているか		
事業計画性、透明性	事業が計画的に、かつ透明性を確保して実施されているか		
住民・利用者の参画	住民または利用者とのパートナーシップを推進しているか		
2 適正な施設の管理		<b>B</b>	利用者の利便性に配慮し、施設の安全管理に努めるとともに、職員全員の救命救急講習受講や守秘義務の職員周知など、危機管理や個人情報管理の体制が整備されている。また、職員を事業実態に合わせ、合理的に配置するとともに、外部研修受講者の伝達研修など、計画的に研修を実施した。
施設保守・管理	施設の保守、管理が適正に実施されているか		
職員体制	合理的な配置か、責任体制が整った配置か		
危機管理	事故・緊急時の体制が十分に整備されているか		
個人情報管理	個人情報の管理が適正であるか		
職員研修	職員研修が十分に実施されているか		
3 収支・経費節減		<b>B</b>	節電等により経費削減の取組が積極的になされており、収支状況もおおむね適正である。
収支状況	収支の状況が適正かつ良好であるか		
経費節減の取組	経費節減の取組みがされているか、		
4 指定管理者の経営状況等		<b>A</b>	適正な会計手続きがなされており、経営状況についても問題はない。
会計状況	適正な会計手続きがなされているか(監査報告書等による)		
経営状況	経営状況は良好か(貸借対照表、損益計算書等による)		
5 その他		<b>B</b>	文書類や帳簿、関係資料などは適切に管理されており、事業の内部評価も実施されている。
文書等の管理	文書類、帳簿、備品、資料等が適切に管理されているか		
評価の実施	内部評価を実施しているか		

指定管理者選定に係る事業計画書の主な取組内容	左記に関する取組状況とその取組に対する評価
・生活介護事業及び室内温水プール事業の実施 (機能訓練、入浴支援、社会参加活動の支援、スポーツ・レクリエーション事業等)	指定事業に係る取組に関して、概ね計画的に実施されているとともに、生活介護事業では、地域交流に取組むなど、引き続き、様々な工夫によりサービスの向上を図る努力がなされ、社会参加活動においては、遠出の外出を小グループで数日間実施するなど個別の満足度に重点を置いたものを実施した。また、たん吸引の医療的ケアの実施が可能な職員の増加によるケアの充実や、他施設の看護師と医療分野における看護職ミーティングを立ち上げ「感染症マニュアルの作成」をするなど連携の強化を図った。

総合評価	総合評価の理由、今後の課題等
B	在宅の重度の心身障害者に対し、通所により各種のサービスを提供することにより、自立の促進、生活の改善、身体機能、日常生活能力の維持向上等を図ることを目的とする施設として、効率的で安定した業務運営に努めている。現在、重度の身体障害のある方が9割を超えて利用されているが、介護職員に男性が不足しており、今後の課題としては、利用者の安全を確保しつつサービスの質の維持、向上を図りながら、引き続き、利用者確保への取組が望まれ、効率的で安定した業務運営を持続することが求められる。一方、施設の老朽化により修繕等が多く発生することが予想されるため、安心して利用が可能な施設の維持管理が課題である。また、福祉避難所の開設マニュアルの作成及び台風及び地震時におきた停電など、災害時における様々な対応については、今後の大きな課題である。

- ※ 評価は、A~Eの5段階評価とする。  
 ※ 確認調査の結果をチェックリスト等に記入する。更に1~5の大項目ごとに評価を行った後、総合評価を行うこと。  
 ※ A:非常に良好である又は非常に成果があった。 B:やや良好である又はやや成果があった。 C:取組状況の水準が普通である。  
 D:やや改善の余地があった。 E:多くの改善すべき点が見受けられる。